

O.B 会報

第13号

昭和50年12月1日

横浜国立大学
ワンダーフォーゲル部
O.B会

O.B 総会議事録

1. 期日 昭和五〇年四月二〇日(日)
一三時〜一七時
2. 場所 横浜市教育会館
3. 出席者 (三四名)
三期 井上
四期 跡部・谷上・斎藤(伸)・部司
六期 密島・原
八期 田中
九期 三浦(煌)・日渡・山泉・上原
十一期 榊原・桜井
十二期 山川・榎本・左藤・山下
十三期 宇佐川・中村・村松・海保・赤松
十四期 小口・高木・鶴岡・狩野・西井
十五期 中島・小泉・萩生田・大島・牛窪・谷島
4. 内容

- (1) 事務局長挨拶……山下(十二期)
- (2) 会長挨拶(代理)……井上(三期)
- (3) 新会員加入の承認
- (4) 四九年度活動報告
- (5) 事務局
- (6) 特別なし、二月と三月に事務局会を開き、会報・住所録の発行の計画を立てた。
- (7) 各期代表
- (8) 自己紹介と現状報告
- (9) 四九年度会計報告
- (10) 五〇年度事務局長・事務局員の選出
- (11) 各期連絡員を兼ねて一名選出(補佐が必要な時は、随時事務局長が指名) (※) 現在は二期・北見・七期・八島
- (12) 事務局長 海保(十三期)
- (13) 事務局員 松本(一期)・吉野(二期) 井田(三期) 斎藤(四期) 亀井(五期) 密島(六期) 松本(七期) 田中(八期) 上原(九期) 大塚(十期) 中林(十一期) 山下(十二期) 西井(十四期) 小泉(十五期)
- (14) なお、五一年度からの構成を検討する。
- (15) 五〇年度活動方針
- (16) 住所録改版……現役の分も入れる。
- (17) O.B会報(第一三三号)発行

・会費徴収について検討

・振込用紙を各人に配布して請求

・総会等を通じ、少しずつでも集金

・各期事務局員が納入状況を把握

・現状を会員に浸透させる

・"ユウレイ会員"についての検討

・二〇周年記念行事準備

・現役へのバックアップ

・案……五一年に記念式典を行なう

職業調査(ワングルの各要素が、現在の職業に

いかに生かされているか)等

・細目は、事務局会で話し合い、運営していく

・実践活動

・各期ごとの活動の紹介

等を考えている

・新校舎での懇親会

(7) 山小屋について

・現役より報告

・天井・カーテンを入れた

・バス停「渋谷」が新設された

・火災保険に、早急に加入する必要がある

・OBより質問
山小屋を使用したいときの連絡網はどうなっているの

か

主将・山小屋委員長へ連絡

鍵は、岡田さんと山小屋委員長が保持している

OB会長

落第の記

先月来、第四期斎藤伸一君から、会報原稿の依頼があって、はた／＼と困惑してしまった。この数年というものの、事務局会、総会ともに、週末は忙しさと息詰の交錯の中であって、殆んど出席しなくて、恐らく最近の会員達は、私の顔も名前も知らないのではないかと、思ったからである。思えばOB会も、一期の現阪大助教嘉納秀明君が、まだ横浜国大の教職に在った頃の一期生中心の時代——そして二期吉野君(キャン)・米尾君(東芝)・塚原君(日立)・三期井上君(日立)・井田君(日本原子力)・四期跡部君(安田信託)・郡司君(日本鋼管)等を中心として、遂に山小屋建設をなし遂げた黄金時代——そして更に、更に、更にと命脈を保って、今春は十五期生を迎えているわけです。そしてこの間、殆んど職責を果さずして、第一期で、転勤がまずないと思われる私が、何れも専務、ならぬ万年名誉会長を十五年間在職してしまった。このことは、先にも挙げた諸君や、歴代の事務局長、局員及びOB会再建の労をとり、未だに事務局の重要メン

パーである斎藤伸一君達に負う所大である。企業なら、年功序列の無能社長を多年に亘ってトップにあれば、トップに倒産、乃至は解散してしまっている処だ。完全に会長落第の時期に来ている。考えてみると、横浜国大ワンダーフォーゲル部創立の年（昭和三年）に、この世に生まれ人達が、今年大学生となつて、現役部員として在籍していると思うと、何かしら、信じられない気がする。と共に、過去の事に、思いをはせて年を勘定するようではもう中年も通り越したかと反省したり、感慨諸々である。ともあれ、これ以上名目会長としても勤まりそうにないので、この辺りでカッコよく言えば、後進に道をゆずり、第一期生連絡係としてOB会に微力を尽したいと考えている。

大学キャンパスも、昨秋横浜市和田町に移転し、総合大学としての横浜国大がスタート。ここで又新しいワンゲル部の発展と、OB会の永遠なる命と泉に期待を込めて会長落第の弁を閉じる。

OB会員の皆さんへ 現状報告とお願ひ

OB会事務局長 海保茂道

本年四月二十日、横浜市教育会館にて、再建後三回目のOB総会が開かれ、今年度のOB会の活動が開始されました。今年は新たに十五期八名の新OBが加入、これでOB会員は総勢二百十三

名となっております。こうした大所帯で、各会員まさに東から西まで各所に点在し、と同時に一期の方々はそろそろ不惑の年に近ずき、十五期の新OBは、二十代前半という年の違い、それに伴うワンゲル観、社会観のちがひ、そうしたギャップがさらに広がっていくようです。こうしたまさにさまざまな多様性を含むOB会を運営していくには、そして軌道にのせていくには、各期の有志が中心となり、小さな活動をつみ重ねていくことが必要なのではないでしょうか。現在、各期の有志が事務局員となり、事務局を構成し、ささやかながらも、こうした会報を発行して、懐しい仲間との消息を公開し、又名簿の作成などをおこなっております。しかし、何分にも、大きな得体の知れない集団であるOB会故、はつきりとした活動もおこないがたい現状です。

OB会の目的なるものについて、再建OB総会（S四八年）の時に若干の話しあいがありました。つまり、現状から言つて、とにかくもOB会が主体性をもって活動できるよう、まずOB各位の密な交流をはかり、そこからワンダリングなり研究会などの動きがでてくるのを待つということになりました。現状では、まず各期を充実させ、少しずつでも各期の交流の輪が広がり、親密さが増してゆけばそのなかから自分達の生活に即したワンダリングなり、研究会なり、諸活動なりが芽生え育っていくのでは、と期待している訳です。

しかし、こうしたささやかな活動においても活動資金は必要ですが、会費納入が円滑におこなわれておられないのが実情です。再

建OB総会にて明確化されたように、現在OB会としては十七万円弱の負債を背負っている訳です。こうした負債を返す為にも、又活動する為にも資金が必要なのですが、会報十一号に定めた新しい徴収金額、又毎年の千円の会費の未納の方が多くいるようです。未納分がたまった場合かなりの額にもなるようですが、少しずつでも結構ですから納入していただきたいと思います。なお、従来の銀行の口座の他に、新たに郵便口座を開設しましたので、よろしく御協力の程お願いいたします。

Y・W・Vも来年で二十周年を迎えることになりました。十周年では山小屋、十五周年ではスカイライン発刊、さて二十周年では？OB会としても、今年度から徐々に準備して何らかの二十周年行事をおこないたいと考えております。いまだ良いアイデアもでておりませんが、何かありましたら、是非事務局員にまでお知らせ下さい。



“東から西から”

No. 2

第一期

新春の賀状だけは、欠かさないのでが、現在一期生は全国に散らばって、会う機会が少なくなった。不惑の年に近くなり、苦しく辛い立場にいたることだろう。

嘉納 秀明(工) | 阪大基礎工学部助教授。女兒一人。

田上 栄一(経) | 神戸製鋼の名古屋に行ってもう五年。やや中年肥り。男児二人。

小野 三郎(経) | 音信不通。自営(?)

佐藤 文雄(経) | 自営・大阪商人になりきったとか。

吉田 光志(経) | 三菱レーヨン。西独へ行ってもう七年。音信不通。

吉田 輝義(工) | 三菱電機・静岡

藤岡 暉生(工) | 新日本製鉄・千葉

吉田 和夫(工) | 昭和石油・川崎

望月 文雄(経) | 秩父セメント名古屋営業所長。男児一人。

桑原 忠雄(経) | オリエンタル酵母。女兒二人。

河野 哲(経) | 小松製作所サンフランシスコ在駐もう五年。男児二人。

松本 正雄(経) | 日本テレビ営業部。男児三人。

(松本)

第二期

「OB会報に何か」

といわれて、住所録を開けて、四、五人の方に電話をしてみました。電話口の向うの聞き覚えのあるあの声、この声は懐かしいものでした。

吉野さん、米屋さん、塚原さん、三人とも最近家を求められたとか。それぞれ安住の場所の欲しい年令になってきたのでしようか。米屋さんは、母校の電気化学科で、非常勤講師もされているそうですから、現役の中でお逢いしている方もいらっしゃるでしょう。

岩上さんはかつて新宿駅で教え子といっしょに最終列車を待っているのを、ときどき見かけましたけれど、

「今はもう、そんなこともないね、年をとったから」

といわれている電話口のそばで、元気な女の子さんの声がしていました。(一年六ヶ月だそうです)下和泉小学校で六年生を受け持っておられるそうです。

斎藤さんは療養休暇中でした。脱疽で三ヶ月ほど勤めを休まれたそうです。

「『機能は回復する』と聞いていたけど、もう長くは歩けないんですよ」とちょっぴり淋し気に聞こえました。卒業後も発掘などで野山を歩きまわっていたと聞いておりますから「さぞ……」と思われました。でも六月中は頃から又勤めには出られるそうです。

宮崎さんからは毎年楽しい年賀状をいただいておりますが、元

気ががんばっておられるようです。

渡辺さんは卒業後まったく音沙汰なく遠い存在でしたが、福井におられ、結婚されてお子さんもいらっしゃるそうです。

時折り山から絵葉書をくださる荻野さんは、東京のおばさんの家に下宿して、三光汽船でコンピーターを扱っているそうです。ひとり身だから、山へ行ったり絵を画いたり勝手気儘にやっているとかいわれました。

西村さんも二年生の男の子一人ですし、「何かしなけりゃ」と思いつつ好きな洋服や刺繍をして暮しているそうです。毎年横浜の実家へ遊びにこられますから、その時は電話でおしゃべりします。くだらないことを。

多田さんとは時々電話をかけるので一番ようすがよくわかるのですが、先日子づれでいっしょに絵の展覧会へ行きました。育児に追われて、週に一、二度行っていた実家のお店へは、このところ行っていないそうです。

そして、わたくし北見は、頼まれてあずかっている子も含め四人のいたずら坊主を相手に毎日あたふたとしています。満五年経った自宅の文庫でも、もう少し何かしてあげたいと思いつつ、そのままで続けているしまつです。

(北見)

第三期

「もしもし。こんにちは井田です。三期の原稿を書いて下さいよ。お願いします。僕は元気です」

さて、三期のメンバーのことだけど、関西に渡辺享英、四日市に金田精彦、静岡に高橋俊吾ががんばっており、千葉には腰塚泉明と東京、神奈川を中心に東西に活躍しているのだが、年に一度の年賀状で旧知をあたためている程度なので、文字で書き表わすとすると、これといったハイライトがなく困ってしまふ。まあ、子供をつれて白馬に登ったり、スキーをしたりしているのかもしれない、目下ごぶさた中というのもあり、また一人でとびまわっているものもいるというのが三期ってところかね、井田ちゃん。

(井上)

第四期

北は仙台から、南は防府まで全国に散在している四期の中でも異色は、週刊現代の竹内記者、トルコ風呂から、ベイルートまで、全世界を駆け巡っている。最後の独身者、跡部も二世誕生間近とか。跡部夫人の里、仙台の高級マンションに居を構える永田博士は、言うまでもなく、金属材料の權威、愛妻多恵子女史と二人の息子さんとともに充実した毎日を送っている。

ワンゲル随一の子持ちは、何と言っても四人のお子さんを有する横山(広瀬)、毎日のお世話の様は、自称「洗濯ばっさん」に表われている。甲府に御泊りの節は吟月温泉へどうぞ。地元横浜に二人のお子さんを持つ高田(寺沢)は、いよいよ安定した主婦となられている様子。高田と同じく娘二人を持つ齋藤伸をうらやましがらせているのが、郡司、待ちに待った長女誕生で、一男一

女と産み分けに成功。

念願の二階建てマイホームを新築した四日市の齋藤貞は、三菱油化の幹部社員として、春斗対策に取り組んでいる。嫁造り、家造りの早かった谷上は、子造りは一人と、一步遅れをとっている。牧原、泉(織田)もお子さんは一人とか。

遠く山口県にいる二児の母、大黒(橋出)、新しい職場、新しい住居、新しい奥さんで張切っている静岡の谷、婿養子を迎えられたとの噂のある原もそれぞれ元気でやっておられると思う。

OB総会の出席者は、昭和四八年度が、跡部、谷上、齋藤伸、郡司、谷、昭和四九年度が齋藤伸、高田(寺沢)、井田夫人(鮎田)、その他のOB会の行事に竹内が出席しているなど比較的、集まりが良い。

いよいよ、中年一步手前の年令となり、この辺で一花咲かせようとの声も、ちらほら出ている。

(齋藤伸)

第五期

諸角、中村の両氏が転居しました。中村氏勤務先が近くなり、増々御活躍の様子、又小玉氏が大阪へ転勤、五期の関西のメンバーに又一人が加わった様です。三宅氏は昨年結婚、そろそろ二世の誕生のころ。谷上氏もそろそろ二児の父親になるころです。なかなか連絡がなく、便がないのが無事の証が五期の現状ですが、不況にもめげず皆々頑張っている様です。

(亀井)

第六期

YWVOBとなつて、はや十年。社会的に中堅としての地位にある面々、めっきり山の情報には疎くなっており、OB会にも無沙汰がち。たまの連絡ではいつか全員で会おうと言つてもいつも掛声倒れ。転勤や結婚式で数名が顔を合わせるのがせいせい。

北海道では秋山の便りがちらりほらり。拓銀のエリートなれば北海道永住もやむなしか。北大の清水博士は音信不通。風の便りには目下米留留中とか。

江角社長は製函の社業に多忙を極め、独り身で頑張っている由。多忙なことでは商社マン蓮尾氏も同様で、石油ショック以来にわかに脚光を浴びだした石炭を売りまくっている。

菅谷夫妻は御主人の大和工場への転勤で、住み慣れた世田谷に帰つてきて、岡田夫妻は九州海運局長崎支局より本省への転勤で松戸市へ帰つてきた。

六期のビッグニュースは長谷部嬢が松本夫人になられたことだ、四月一日挙式との情報が入つた時は、かつがれるのではと疑つたむきもいたようだ。例はともあれおめでと。新居は西戸部町で実家の近く。式では古荘さんあいかわらずの世話すきで、花嫁の世話を一手に引き受けていたとか。式後、久しぶりの御主人公認外出の永井さん、同席の桜井さんをダベリングにさせるところあっさり断つてダンナ様とデート。未だにアツアツの二児のママ。原先生には特に変化なく一児のパパ。岡本は辻堂に新居をかまえ亭主関白。羽田の日航検査部勤務は変りなし。久野は常に首都

圏に居ながら情報不足。山小屋の棟木(?)にヒビが入つたので設計者として現地へ飛んでもらわねばと事務局の弁。

居所不明は三菱油化の近藤。以前から鹿島へ来ていらしいが連絡つかず。

以上乏しい情報からリポートしたのが密島。内容の誤りについては御容赦を。

(密島)

第七期

我々七期二五名は、四二年卒業後、はや八年を経過し、私的にも社会的にも、様々な道を進みつつある。

この物価狂乱の時代に一番即応できる独身生活を謳歌しているO君やS君(或いはバラ色の婚約時代なのかもしれない)甘い新生活にひたっているK君、結婚後八年目で子供誕生を目前にして歎びをかみしめているM夫婦、二人目誕生で厳しい時期にかかりそうなK夫婦等……

社会的にも、海外で日本資本主義の片棒をかつぐH君、学生時代とがらりと変身し深い学究生活に入っているH君、つましく家庭の柱となり旦那と子供達の成長をあたたかく見守る女性陣、卒業後北陸で仕事を続けるY君等……

我々二五名、比較的東京近郊に住んでおり各人の変身ぶりを見るにも、学生時代同様一献かたむけたいものである。

(八島)

第八期

楽しい学生生活を送った八期の仲間達もそれぞれの道を歩き始めて早八年目を迎えている。多くの者はすでに所帯持ちとなり、熱心な山男や山女と思っていた我々も山行から遠ざかったのも少くない。現在八期を結ぶ集いといえは数少ない独身者の結婚祝賀会である。結婚式当日またはその後に行なわれる八期恒例のパーティーで一同に会し、学生時代の思い出を語り、鬩声を挙げ、山の歌を歌うのは、お互いのブランクを飛越え、やはり楽しいものである。またその際に交される皆の近況も学生時代の姿と対比され興味深い。八年も経過すると夢も希望も無く、必然子供、仕事、不動産、給料等の話に限られ、紙面を割くにしのびない。

さて、所帯持ちの話から始めると、明村が今年の三月に結婚したことにより、経済出身者（平沼、畑中、明村、小出、飯村、早坂、岩科、小谷）は総て一段落したことになる。子供二人が幼稚園となつている小出を始め皆順調に一人以上の子供をもうけ、子供に期待を託す親馬鹿になりつつある。経済出身者の好調さに対し、工学部は遅れが目立ち、上島が今月一月、須藤が五月に結婚したことによりやと五名（溝田、上島、森、須藤、池原）となり残り三名である。既婚者は古手の溝田と森を除けばいまだお熱い期間中である。独身の三名は縁が無いのか、収入が少ないのかあるいは……なのか、次の予想は難かしい。教育学部（桂原、仲田、長坂、高橋、檜原、鈴木、秦）は、住所録に示す通り大体姓が交っている。三食昼寝付きにありついた人、共稼ぎの人、いろ

いろいる様である。八期のメンバーのそれぞれの勤務についてはここでは省略するが、森が現在ブラジルに小谷がオーストラリアに長期派遣され、海外において活躍している。現在八期の仲間も何かと多忙（？）で、まとまった山行も適わぬため堅固な三人の一角が崩れるのが、次回の集いの決定権を握っている。早期の犠牲者の出現を待つ次第である。かつての山男・山女が現在も共に山行しないのは後輩の諸君には不甲斐ないと思われるかもしれないが仕事、家庭、老化等のため、出不精になるのは容赦願いたい。所帯話で紙面を費したが、賢明なる諸氏には、所帯持ちのマイホーム主義と独身者の売れ残り気質を頭に描いて近況を推量して欲しい。（田中）

第九期

十年一昔といいますが、我々九期にとっては、昭和五〇年春は大学に入学した昭和四〇年春から丁度十年たつことになりました。何の因果か、十年前に人生の道を誤らせたとしか言いようのない（？）Y W Vに足を踏み入れてしまつて以来、ワングルのシゴキと卒業後の社会の荒波の中でいろいろな出来事がありました。まだ嫁さんが見つからずあせっている者もいますが、ほとんどは結婚にゴールインして、そして昭和四九年はベビィラッシュという現状です。トラ年に実に六人（七人）が、パパ（ママ）になつたという次第です。この可愛い二世の為に、ワングルで耐えた体力で、インフレに立ち向ってがんばっていかなければならぬとい

れからの十年は、果してどうなることやら……。昭和六〇年の春には、どんな状況に発展しているやら、楽しみと不安の心境である。

(上原)

第十期

山本真幸、山本真澄、丸山健太郎、村田〇〇、大塚未夏、……、これは我々十期の二世の名であります。全員がまだ一才前後なのを見ても、十期がただ今第二のベビーブームを作りつつあるのがわかると思います。また一方、シングルも半数近くなり、今後、続々と生産が続くものと思われまます。

さて、我々十期は、仕事の上でもやっと六年目に入りようやく一人前になるに従って、山への入山日数は反比例的に減って行くようです。それも、本格的な登山は、一人二人の例外を除くと、ほとんど行ってないのが現状です。

全員が東京又はその周辺に勤務、生活しているので、連絡は取り易いにもかかわらず、昔の仲間と山へ入ることはほとんどなくなっております。

会社の同僚等と山へ行くことが多くなり、その山の登り方も、夜行列車、テントで過ごすことはほとんどなく、日数を多く取り山小屋でのんびりとするか、日帰りハイキングが多くなっております。これは、体力及び勤務の都合上已むを得ないのですが、なんとなく寂しい感じがして来ます。私にしても、ベビーキャリアーを買って、山へ子供を連れて行く気がありますが、まだ一度も実行

できず、一人でのんびり楽しんでいるだけです。

「自然に帰る」というワンゲル精神を、我々に適した方法で、しかし厳しさを持って進めて行きたいものです。

体力の維持、精神の定らぎを求めて、今後も山への情熱を維持して行くのは、十期全員の気持ちだと思います。

(大塚)

第十一期

十一期の近況報告を昨年に続き再び書けといわれて、ぼいぼいと引き受けたのが運のつきで、仕事も忙がしく？ ついつい書くのを忙がしていたら、催促の電話を二度ももらい、あわててこれを書いているところです。東京近辺に住んでいるものが、今年去去年より一名減り、丹羽が去年の五月名古屋に転勤し、地方の住人の方が多くなった。今年私(桜井)が北海道札幌に夏に転勤の予定で、東京近辺の住人はまた減ることになると思う。皆が地方に住んでいるので、仲々会えないが、近くにいるものだけで、今年二月は妙高高原スキー場へスキーに行った。集まったメンバーは私、丸山、中林、安藤、野田で、野田は伊那からわざわざ参加した。最近皆金回りもよくなったのか、グウタラになったのか、山小屋に泊ろうというものがなく、スキーの後は風呂に入りたいという者が多く、下の杉野沢の民宿に泊ることになった。あいくと天気は吹雪であったが、スキーの後はマージャンをして一年に一度は集まれる者が集まってスキーに行こうということになった。他の地方に住んでいる神田、石橋、丹羽、大森とは直接

会う機会がないが年賀状等でみる限り、又風のうわさに聞くところ、皆チ・ボチ・ボと元気で、山にも登っているらしい。

第十二期

(桜井)

我等七人、すでに二十代の後半、ア・アだんだん加速度が加わってきている感じ。まあ何となく七人が七人自分の進むべき道を歩み出したことは確かだが、一年後、二年後の姿が今と同じと約束出来る年令でもない。まだまだ若いのであり、悪く言えば、青二才、OB会などで先輩の姿を見「まだまだあはなりたくないなんだあのさまは(失礼)」などと批判の言葉も出てくるというもの。同時に現役諸君の良き手本となるよう日夜がんばっているのです。

今年に入って七人の中から結婚した者も出ました。予備軍もいるようです。まあそんな年令になってしまったんだから当然は当然です。

これだけでは近況報告にもなりません、本当の所、あまりまとまった交流をしていない状態なのです。電話で話しても、なんとなく世間一般の話だけ、まだまだ変わった事が起こるなどという年代には入っていないようです。その内「だれだれは三度目の結婚をした」とか、「どこどこは今度八人目の子供だそうだ」「彼はヒマラヤの未踏峰に登った」などという報告が出来るかもしれないが、今の所七人とも残念ながら平々凡々、職場と寢床の往復のようです。といってもそこは我等現役ワンダラー、自然への

あこがれは消えず、仕事の合間に出かけているようです。今年の冬鳳凰三山へ出かけた女性もいるようです。

何はともあれ、我等十二期、めずらしく全員首都圏の中、今後は同窓会の回数もふえていくことでしよう。

では、次回報告における我等七人の変身ぶりやいかに、こう御期待!

(山下)

第十三期

紅一点の小沢女史、北海道から三重に、そして今は京都にいます。そうです。久しぶりに十月山小屋にて会いました。相変わらずでした。今は編集の仕事もやめて、さて次は何を?と考慮中とか。

宇佐川……東芝住宅をやめて、持田建設設計事務所勤務。

忙しさの中でも山への情熱は失っていません。

赤松……そろそろ転勤か、と焦っている彼。そろそろ次まりですか。あの巨大を利用してラグビーをやっているとか。

村松……鹿島建設は爆弾グループにおそわれた大企業なので、顔写真入りの身分証明書を持ち歩く彼、残業がなくて暇そう。

友二……大学とは縁を切り(切られ?)運送屋さん。新分野をまかせられ、朝から晩まで張切っています。

吉里……鷹取小に勤務。新設校で女教師が少ないとか、まさに彼むきの、教育に専念できる場所なのです。

竹村……三井造船も残業、出張がなくなり暇そう。不況にもめげず新車購入したとか。

太田……：氷立藤沢高校は女子校だ、それで、彼は十三期の中で一番恵まれた職場にいるのです。ワングル顧問をつとめる山男。

そして海保・山行月一回はもはやくすれ去り、連休や長い休みに山にでかける程度、楽な山行にそこがれる年なのでしょうか。

さて、仲間のあいだで徐々に表面化しつつあるメデタキ話。次回はいきと披露できるものと信じつつこのへんで筆をおきます。

(海保)

第十四期

ワングルを追い出されてから、一年がまたたく間に過ぎました。社会人二年生で、あまり転進のなさそうな我ら八人のうち、今年一番ホットなニュースの提供者は、なんといっても曾根原さんでしょう。

「やっちゃん、結婚おめでとう」

その他、残る七人も、それぞれ頑張っているようですが、いまだに吉報は届きません。その点は、今後に期待するとして、十四期の近況をお知らせしましょう。

四月二十日の総会では、小口元主将、高木元副将、鶴岡、狩野、西井の計五人が集まり同期会について相談しました。

幹事持ちまわりで、内容や日時、場所などは幹事に一任すること。そして、できるだけ機会をつくらう、ということになりました。今年の幹事は高木君ですので、少々低滞気味の我が期を盛り上げてくれることでしょう。

信州は諏訪の住人となり、四月の横浜の暖かさにおどろいてい

た小口君。

。東京の用賀中学校で中学二年を受け持ち、サッカー部の顧問もして、今年こそは全国大会をめさすとはりきっているのは高木君。

。大学一年生として貫録十分。来年かさ来年の春には卒業する予定で、勉学に励んでいる鶴岡君と鶴飼君。

。直江津の信越化学に勤務して、妙高の山小屋にもよく行くらしい道夫君。今度寮を出て下宿住いになったそうです。

。横浜の峯小学校で教鞭をとるかたわち、あいかわらず、山にも行っている狩野さん。

。挙式は、十月二十六日でした。今は東海村にて家事に専念する曾根原さん。現在は水本さんです。

。最後に私。小学校五年生を相手におこったり、笑ったり、せわしない毎日を送っています。(西井さんも来年挙式です。おめでとう！……事務局一同より)

(西井)

第十五期

山へ行けば元気もの、小屋へ行けば働きもの、スキーをやらせりや言うことなし、まことに出ればよくもて、学校にあっては勉強好き……輝く十五期です。

十五期の総勢八人。新たにOB会のメンバーになりました。と、申ししても、ちゃんと卒業してOBらしくなったのは半分の四人(このすばらしい連中がどうして卒業できないのか全く不思議)まずはその四人の近況から。

青木は、横浜のY・M・C・Aに就職しましたが、今はやめて家にいるそうです。そろそろ永久就職もといううわさも聞いておられます。

岩船は、三菱金属に入社し、三月に直島へ行ったのですが、彼の消息はそこまで。ことわざにもあるとおり元気でやっているのでしょうか……

谷島は津久井の串川小学校で教師になりました。三年生の担任とか。毎日子供とぶつかり合っていることと思います。四月のOB総会の時には声がかすれていました。

三井造船に入社した萩生田、幸に十三期の竹村さんとは職場がちがひ、千葉の工場です。土、日にはよくこっちに帰ってくるのか。夏休みは十日ぐらいあるとか、わりかしひまそうなりわさばかり聞きます。もっとも、いそがしそうな萩生田君というのはあまり絵になりませんが……

上記の四人に対し、大学に残り日夜勉学（？）に励むのは牛窪大島、小泉、中島の四人。大島はあい変らず沢登りに凝っておりまして、ほとんど毎週丹沢その他へ出かけております。来年も勉学にはげまざるを得ないのでね、といううわさもつたわっております。牛窪は、本人は今年こそ出ると申しておりますが……彼のことですから……。とにかく実験室で毎日頑張っています。中島は相変らず現役のめんどりをよく見ています。執行部時代の彼は話をぶちこわすのでみんなをなやましたのですが……

かく申す私めは、可もなく不可もなくやっておりますが、身辺

少々いそがしくまいっております。
以上十五期の近況です。

(小泉)

〈事務局より おしらせ〉

一、今年度の活動について

。大学祭(十一月)新校舎(常盤台)にておこなわれます。

新統合地見学も兼ねておいで下さい。——中止

。追コン(十二月)新OB(十六期)の加入という意味も含めて……

。スキーや山行の話もあります。何期が中心となって呼びかけてくれるでしょうか楽しみです。

。来年の二十周年記念行事を具体化すべく検討中です。妙案がありましたら是非お聞かせ下さい。

。現役に何か援助を……でも金がない。ザックマークをプレゼントしたら? という意見が出されました。YWVのなつかしいザックマーク、今は現役はつけておりません。

。予算の許す限り実現させたいのですが……只今検討中。現役を援助できるOB会になりたいものです。

二、山小屋について

山小屋についての問題点がいくつか出され、事務局会でも話しあわれ、又現役とも相談しましたが、その概要をお知らせし

ます。

。小屋の登記について……登記するために屋根の色を緑色に塗りかえる必要があるのですが、焼付け塗装のため、上から塗ってもすぐにはけてしまふ、ということですが。又小屋にはいる道路がサレジオの所有らしく、その借地の件とにかき登記するように検討中です。

。火災保険……保険会社に聞きましたところ、山火事の場合には保険の適用外とのことだそうです、万が一の為にもはいる予定だとの現役からの報告です。

。山小屋の破損……四隈の小屋の外に斜めに出ている柱の一本がかなり破損している様子。緊急に修理する必要があると思いますが。

現在、山小屋は現役の管理下にあります、いろいろの問題がおきてきた時に、OB会としても、できるかぎりの援助をしたいと考えております。なお、山小屋について何らかの問題点、アドバイス等ありましたら事務局までお願いします。

三、現役の今年度の活動について

七月下旬～夏のPW（北海道、北アルプス、南アルプス等）

八月二十七日～三十日 山小屋整備

十一月月上旬 大学祭 中止

十二月中旬 総会（次期主将・副将選挙）

十二月二十日 追コン・スカイライン発行

冬休み スキー講習会・冬山訓練

一月上旬 総会（今年度総括・来年度活動方針）

午餐・合Wは未定

四、会計

このたび新しく郵便口座を設けました。もよりの郵便局より振込めますので、是非御活用下さい。

口座番号 横浜二四一九

加入者名 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

五、その他

再建OB会となって三年目を迎えました、年々OB会員の数は増加して、二百人を越えました。連絡のない人、会費未納入の人が多くなっている現状では、今一度正会員としての意思を確認するべき時期に来ているのではないだろうか。という意見が事務局の中にも出ております。正会員、準会員という言葉も今は有名無実になっていますが、膨張した組織をひきしめ活動しやすくするためには、こうした区別も必要なのではないでしょうか？ 各会員の忌憚ない意見をおきかせ下さい。

△続・事務局よりおしらせ▽

名簿送付時にもお知らせしましたが、OB会報の原稿はすでに七月の時点で集まっています、名簿と同時発行できる状態なのですが、資金不足のため、今まで発行できずにいた訳なのです。よりやくにして今日、日の目をみるわけですが、内容的に少★

古い点もあると思いますので、直すところは直しましたが、どうぞ御容赦下さい。

一、会費納入について

おかげさまで、会費納入にかなりの成果をおさめることができました。現在、十二万円の現金を右しております。OB会報の印刷代、郵送代、そして現役へのプレゼントということでザックマック作成費などに使いたいと考えております。

皆様の御協力に感謝すると共に、ポーンナスの時期を迎え、わずかでも結構ですので御送金下さるようお願いいたします。

二、大学祭中止について

新聞紙上にて御承知の方も多いかと思いますが、期待していた新校舎での大学祭は、実行委員会と文サ・体サの主導権争いから不穏な状態となり、中止することとなりました。その為、大学祭の通知を出しませんでしたのであしからず。

三、活動状況

○ 事務局会議 …… 今まで六回開催

最近話しあわれた内容。会報発行について・ザックマークを現役に送る件の具体化・山小屋の借金返済について・会費納入状況と使途について …… など

○ 山小屋に集まりました。(10月10日・12日)

飛び石連休を利用して山小屋に集まろうと声かけあって、とにかく、山小屋に行ってみたら、総勢七名となりました。そのメンバーを見てみると榊原(十一期)山下(十二期)小沢・海保(十三期)鈴木道夫(十四期)小泉・萩生田(十五期)の十一期から十五期までの若者達でした。

妙高山をはじめ火打山等紅葉につつまれ、笹ヶ峰ではキノコ狩やキノコ鍋を楽しむ人々にぎわっていました。皆でコタツを囲みながら楽しくかたりあったものでした。

○ 斎藤氏(四期)が九月に大阪に行き、嘉納氏(一期)を訪問したそりです。大阪支部では現在のメンバーは七名に精選され、今後の活動に備えているとのことでした。

四、再度、会費納入のお願い

郵便振替口座番号 横浜二四一九

名称 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

第一勧銀大森支店 預金口座

口座番号 140-1-240-221

事務局員に届ける、渡す。等々

五、正会員・準会員について

名簿送付時に「おしらせ」の中でもふれましたように、正会員準会員の区別をつける時期がきたようにも思われます。郵便振替口座の新設により、かなりの会費が送られてきましたが、それにより会費未納の方との格差はひらくばかりです。また今国会にて郵便料金の値上げが可決されれば、かなりの郵送料アップで、また資金ぐりが苦しくなることも予想されます。そこで、過去より便りの全然ない人、何の応答のない人は準会員扱いとして名簿には掲載しますが、郵送物の送付は中止する方向にもっていかざるを得ないと思います。事務局としては以上のような考えですが皆さんいかがでしょうか。

六、最後に

十二月二十日(土)に追出しコンパがおこなわれます。

(会場未定 …… 後日連絡)